

500名以上の先生方の参加を頂き、今年度の専門研修17講座が終了しました。その中から、著名な先生方をお招きして行った公開講座の内容をご紹介します。

12月には福島県特別支援教育センターの研究発表会を行います。ぜひお誘い合わせの上、お越しください。

## 平成29年度 第32回 福島県特別支援教育センター研究発表会

- 1 日時 平成29年12月1日(金) 9時45分～15時45分
- 2 場所 福島県ハイテクプラザ 多目的ホール(郡山市待池台1丁目12番地)
- 3 主催 福島県特別支援教育センター
- 4 主題及び内容

### 主題「共に学び共に生きる社会の形成に向けて」

～共生社会に向けた特別支援教育の役割について考える～

#### (1) 研究発表

①教育研究(二年度)「特別支援学校教員の協働による専門性の向上・継承と校内組織の活性化」  
～学び合う学校組織(OJL)への取組～

②調査研究(二年度)「入院児童生徒等の学習状況調査と支援体制の整備」  
～切れ目のない教育や学習の充実を目指して～

(2) 実践発表 「教育支援機器の実践」 福島県立郡山北工業高等学校 教諭

(3) 教育講演会 演題 「共生社会に向けた教育・医療・福祉の連携の在り方」  
～これからの発達障がい支援から見えてくること～

講師 国立障害者リハビリテーションセンター病院長

発達障害情報・支援センター長(併任)

西牧 謙吾 氏

#### (4) ポスター発表・展示・紹介

①長期研究員によるポスター発表、教材や支援機器等の展示、学校紹介等

②小・中学校に在籍するきこえに課題のある児童生徒の学習環境等実態調査ポスター発表

現在、当センター内に、  
各特別支援学校の作品・作業製品が展示されています！



各校の力作を、  
ぜひ見に来てください！

# 平成29年度 公開講座紹介

## 「特別支援教育コーディネーターに求められるファシリテーション力」 ～意味ある場作りのために～

星槎大学大学院の三田地真実先生より、ケース会議等にも必要なファシリテーションについて、ミニ・ワークショップを交えながら講義をいただきました。異なる立場の人たちが話し合うことは、様々な視点からのアイデアを得ることができること、そのためにどのように「意味ある場作り」をしていくかということをお話いただきました。

### ファシリテーターとしての「3つの行動キーワード」

- ① Why? (何のために?) を常に考えること
- ② プロセスを見る = 話し合いのプロセス、そこで何が起きているのかを客観的に見ること
- ③ 安全な場の確保 = 参加者が対等にその場に臨めるような配慮をすること

また、目的を明確にして話し合いを進めるためのツールの一つとして、「プログラム・デザイン曼荼羅」を紹介していただき、プロセスを可視化することで、より活性化していくことも学びました。



## 「障がいのある子どもの理解と授業の充実」

宇都宮大学の岡澤慎一先生より「障がいのある子ども理解と授業の充実」について、これまでの実践を踏まえて講義をいただきました。「子どもの行動の読み取り」は、特別支援教育における教師の専門性の一つであり、言語による表出が難しい子どもの行動の意味を理解するために大切な心構えを3つに整理してお話いただきました。

- (1) 行動の意味は、長期間の係わり合いの経過を省察する中で見出されることがある。
- (2) 人は、自らの行動の意味が理解されることを重ねる中で、他者の行動の意味を理解できるようになるのではないか。
- (3) パートナーとして共に生きる。

教師は、「子どもにとって、(自分自身が) 発信に足る存在であるか」を常に意識しながら、子どもと係わり、授業の充実に努めていくことが大切だと学びました。



## 「特別支援学校における重度・重複障がいのある児童生徒の理解と授業づくり」

地域ケアさぼーと研究所理事長の飯野順子先生より、学習内容を細分化して項目を設定、記録、評価する「活動分析」と、事例に基づいた演習を通して授業づくりを学びました。

飯野先生が運営する「訪問ビレッジ」は、高等部卒業生を対象とした重度・重複障がい者の学びの場です。始めに、多様な体験活動の場で、学習支援員の方々や仲間たちと豊かな表情で学び続ける学生の姿が紹介されました。このとき、重度・重複障がいのある子どもたちの卒業後に向けて、

- (1) 周囲の大人が児童生徒の力を限定しないこと
- (2) 一人一人の好みを育てる。夢や願いを大切にすること
- (3) コミュニケーション力 (人と接する力、人とかかわる力) をつけること
- (4) 身体づくり・健康づくりをすること

などが身につけておきたい力として挙げられました。

また、子どもが分かる、子ども主体の授業づくりのポイントとして「3S+1」【①Simple: シンプル ②Slim: スリム ③Straight: ストレート ④Small step: スモール・ステップ】の大切さをお話をいただきました。

